

ウムチョ ムウイーザ通信 No. 15

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

「ADESOC」報告

ウムチョムウイーザ学園

チャールズ校長より

ウムチョムウイーザ学園の実現は多くの皆様の直接または間接的な支援により可能になりました。ありがとうございます。2007年1学期のはじめに475名を受け入れてスタートしました。その中で今回は、学園初めての6年生18名に将来の夢を語ってもらいました。

中学校入学資格の国家試験（日本の大学入試センター試験のようなもの）に向けて一人一人75点以上の合格をめざして頑張っています。



イグェテ
女 13歳
科学者

エリック
男 12歳
教授

サムソン
男 13歳
会計士

クロードゥ
男 18歳
技術者

エリック
男 13歳
裁判官

ジスタン
男 12歳
数学学者

ピアド
ウニイア
男 16歳
医者

ポール
男 13歳
ミュージシャン

デイエ
男 12歳
医者

クレペイン
男 12歳
ジャーナリスト

セドゥリック
男 13歳
医者

エマニュエル
男 12歳
医者

ジャクリーネ
女 13歳
ITの技術者

イヴェーテ
女 15歳
医者

ヴウミリア
女 13歳
医者

フランソワーズ
女 13歳
医者

マルティネ
女 13歳
ジャーナリスト

ロゼリーネ
女 14歳
小学校の先生

2006年11月26日3学期終了式現在、13教室で408名（保育学級生127名・小学生281名）の子どもたちが学習しております。

このことができたのは、協力していただいたすべての方々のおかげです。

大変感謝しております。



「ADESOC」と「ルワンダの教育を考える会」の
2006年度（1月～11月）の教職員への給料支払い報告

*時価換算による。単位:円

日本からの支援	現地の負担	合 計
2,500,000	1,338,480	3,838,480
65.13%	34.87%	100%

急激な物価高により、先生方の生活は苦しくなっています。保護者もリストラ等により学費が納入できない家庭が増えています。しかし、2007年に入ってPTA組織もできてみんなで支えていく機運が盛り上がってきています。

2006年11月現在の学費の納入状況の報告 単位：人

納入 状況	保育学級				小学校									合計
	年少	年中	年長 A	年長 B	1年 A	1年 B	2年 A	2年 B	3年 A	3年 B	4年 A	4年 B	5年	
100%	20	24	13	13	19	18	18	21	14	15	9	12	12	208
50%	3	0	0	3	1	1	4	1	1	5	2	1	1	23
25%	2	1	2	1	1	1	2	1	1	3	1	1	5	22
0%	10	13	11	11	16	15	14	18	12	8	10	9	8	155
合計	35	38	26	28	37	35	38	41	28	31	22	23	26	408

<募金のメッセージ>

私はこの前のマリールーズさんの講演を聞いて深く感銘を受け、どうしたらルワンダの人々に協力できるか考えました。



そして文化祭の出店などで売り上げたお金を募金して協力しようと考えました。自分たちが募金したお金をルワンダの人々に少しでもお役に立てれば良いと思っています。

募金を渡す際にまたルワンダの話聞いて環境が変わるにつれての子供達の変化や中学校、高校、大学を建てようという夢の話などを聞き改めてルワンダのことがわかりました。

ルワンダの教育を考える会のみなさん、これからも子供達のために頑張ってください。

2007.2.8（木） 宮城県立松山高等学校生徒代表 中鉢宗作

熱海第二小学校の子どもたちが募金活動を行なってくれました。



2月23日静岡県熱海第二小学校の子どもたちが街頭募金を行い、3月2日にマリールイズに募金・学用品等を贈呈していただきました。この暖かい気持ちを、しっかりと受け止めてルワンダの教育に役立たせていただきます。



感想が寄せられましたので一部分を紹介します



ぼくは、マリールイズさんの話を聞いて、お金を払わないと学校に行けないなんて、かわいそうだと思いました。しかも、まだ学校は完全にできていないので、一日でも早くルワンダに学校ができれば、次の学年にいくテストを受けないで、安心していけると思います。校長先生が言っていた「学校は夢を持つ場所」なので、ルワンダの子どもたちもたくさんの夢ができると思います。 宮崎裕人（みやざき ゆうと）

マリールイズさんの話を聞いて

わたしは、以前に国連大使の田中さんの話やビデオでストリートチルドレンのことを知り、募金活動などに取り組んできました。

でも、今回はいろいろな話を細かく教えていただき、「学校に入学できるのは20%の子どもたち」というのを聞いた時、わたしたちは、とても幸せなんだと再確認しました。また、戦争や紛争で死んでしまったお父さんやお母さんの代わりに、弟、妹を一生懸命育てる、わたしたちより少し上、あるいは同い年の子どもたち。わたしたちが行った募金や物の回収で、その子どもたちを少しでも楽にできたらいいなあと思います。 矢田沙織（やた さおり）



“ふくしま地球市民フェスティバル”に参加しました

田村市 大河原伸



3月4日（日）郡山市“ビックパレットふくしま”で開催されたイベントに、初めてボランティアとして、ひかり（高1）と楽（小5）を連れて参加してきました。ひかりは民芸品の販売の方を担当し、私と楽はルワンダ料理とコーヒー紅茶を販売するブースの前で、客の呼び込みをしました。始めて1時間ぐらひはボチボチだったのに、お昼が近づくとお客さんの数が増え、500席もありそうなテーブルは、常に満席状態となりました。外国からの人たちもたくさんで、中国・韓国・モンゴル・イラク・ウズベキスタン・タヒチ……。ELTの先生達もたくさんいて、とても国際的でした。

この日、朝早く出かけ、ブースのセットやジャガイモの皮むき、そして呼び込みと、常に動き回っていて、体は疲れたけれどもとても気持ちのいい1日でした。それは子ども達も同じで「いろんな人から声をかけられたり、ほめられたり、嬉しかった。また手伝いたい。」と話してくれました。

なぜ気持ちが良かったのか考えてみました。私たちの回りには“ボランティア”と呼ばれるものがいろいろあります。PTAだったり、地区の役員だったり、共同作業だったり……。でもそのほとんどが「決まりだから仕方がない……。やらないといろいろ言われるから……。と渋々やっています。でも今回、「自分に出来ることがあれば手伝いたい」という人達が集まり、その誰もが謙虚でしかも積極的なのです。だから一緒にやっていて楽しくて気持ちが良いのだと思いました。ボランティアは「誰かのため」ではなく、「自分のため」なんだなあ、しみじみ感じたイベントでした。

皆様のおかげで、料理ブースは約200食が完売し、収入114,800円—支出(材料代)46,863円=67,937円・展示ブースは収入(民芸品45,000円+募金2,332円)—支出(出展料)10,000円=37,332円の売上がありました。

ルワンダデー・イン ふくしま

6年間の感謝
をこめて

生き残った思いを
未来へつなぐ!

「被爆ピアノコンサート」の案内

○ 日時 2007年7月27日(金)

開場18:00 開演18:30

場所 郡山市郡山公会堂

○ 日時 2007年7月28日(土)

開場13:30 開演14:00

場所 福島県教育会館

○第1部○

- ・ルワンダの内戦から生き残ったマリールイズの体験談
- ・広島の被爆したピアノが語りかけます

○第2部○

- ・被爆ピアノコンサート
出演者：ネイザン他
(友情出演)

◎ チケット 大 人……………1,000円(全席自由)

高校生以下……………500円(全席自由)

7月27日・28日どちらでも入場可

○チケット販売及び両会場にて、ルワンダの写真展及び民芸品販売をいたします。
お手伝いいただける方を募集しております。

お知らせ

総会の開催案内

本会として、新たな状況に向かって
2007年度をスタートさせるために
も、多くの会員の皆様の参加をお待ち
しております。

期日: 5月13日(日)13:00~16:00

場所: ウィズ・もとまち
福島市本町2-6

TEL: 024-525-3784

編集後記

さわやかな新緑の季節になりました。

今から被爆ピアノがどのような音色をかし出してくれるのか楽しみです。ウムチョムイーザ学園の子ども達も送られたピアノで楽しんでいこうでしょう。

ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子

副理事長 カバ'ンガ・マリールズ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目 8-20

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org

